令和８年度　地域でつながる家庭教育応援事業「家庭教育支援者地区別研修会」

家庭教育支援者地区別研修会

１１月１１日（水）に、県庁西庁舎講堂で、県北域内の家庭教育支援チーム、教職員、保育士、保護者、行政担当者、大学生など５６名のみなさまにご参加いただき、望ましい家庭教育の在り方について考える「家庭教育支援者地区別研修会」を開催しました。研修会の様子をお伝えします。

県北域内における家庭教育支援チームの実践紹介

県北に拠点を置く家庭教育支援チームの代表者のみなさまから各チームの取組をご紹介いただきました。学習支援や生活支援、不登校・発達障害・妊娠や性についての悩みへの相談支援、居場所づくりなど、それぞれのチームが専門性を生かし、各家庭のニーズに寄り添って、継続的に子育て全般についての支援に取り組まれています。各チームの活動の詳細については、下記の二次元コードよりご覧ください。





福島県家庭教育支援チーム　登録団体(県北)

詳しくはこちらから

ポレポレ（NPO法人 MotherTree）　活動拠点：福島市

活動内容



○　NPO 法人 MotherTree は、妊娠・出産・子育ての中で孤立する人がいない社会を目指して活動しています。親子の居場所「ポレポレ」を拠点に、訪問型の家事・育児支援「さんさんサポート」、産後ケアや子育てレスパイト、子育てを学ぶプログラムや出前授業も実施し、活動の状況は Instogram で発信しています。子育てに困っていても・いなくても、親も支援者も、子どもに関心のある人たちが上下の関係でなく、ゆるやかにつながれたらいいなと思っています。

NPO法人はーぐる　活動拠点：福島市

活動内容



○　各種ＳＮＳにて２４時間３６５時間対応している「妊娠や性に関する相談窓口」を開設し、ご希望があれば病院や行政への同行支援もしています。また、保護者やお子さんを対象とした包括的性教育の出張講座等も展開しています。

Room Leaf（ルームリーフ）　活動拠点：福島市

活動内容



○　不登校・登校しぶりや発達障害等の課題を抱えているお子さんや保護者を対象にカウンセリングを実施しています。また、子どもの特性に応じた個別最適化学習等の心理的・教育的な支援もしています。
○　地域における人間関係の希薄化や地域活動の縮小化などによって安心・安全な居場所を見つけることが難しい子どもたちに対して、「社会力」（自分らしさを生かしながら他者と協働する力）を高めることができる場所を提供しています。

福島市子ども食堂NET　活動拠点：福島市

活動内容



○　福島市内の子ども食堂約６３か所が加盟するネットワークとして、子どもたちが地域の中で安心して過ごし、誰も孤立することなく、食を通してつながりあえる街づくりに取り組んでいます。子ども食堂は、子育て中の保護者が地域の人々とつながったり悩みを共有したりする居場所にもなっています。これからも、子どもと家庭を取り巻くさまざまな課題に目を向けながら、困難を抱える家庭にそっと寄り添うつながりづくりに励みます。

不登校の子どもを持つ親の会 COCO～（ココカラ）　活動拠点：伊達市

活動内容



○　不登校や行き渋り傾向の子どもを持つ保護者が、悩みや想いを共有できる大人の居場所。子供の不登校を経験した保護者や元教員、SSR（ｽﾍﾟｼｬﾙｻﾎﾟｰﾄﾙｰﾑ）のボランティアスタッフと共に、具体的な対応について、関係機関の情報を得ながら一緒に考えていく会です。

一般社団法人　CARNIVAL WORKS　活動拠点：福島市

活動内容



○　家庭の経済状況や学校生活の状況にかかわらず、子どもたちが安心して集い、食事や学び、遊びを通じて多様な人々と関われる居場所を提供しながら、ひとり親家庭への食材・生活物資の提供や相談支援や更生保護活動にも取り組んでいます。また、３００人弱の高校生や大学生が「チャリティーカフェ」や「チョコレートイベント」などのアイデアを出し、企画・運営に挑戦できる機会も設けています。支援する側とされる側という一方向の関係ではなく、子どもたちが成長して次の誰かを支える側になっていく、循環型の地域づくりを目指しています。

モア紬　活動拠点：福島市

活動内容



○　不登校にお悩みのお子さんや保護者への相談支援を行っています。本人やご家族のご希望に沿って関連機関様とも連携し、包括的な支援に努めています。学校では自己肯定感をテーマにした「心の授業」の講師を務め、学校やご家庭からの子育てや子どもとの関わり方についての相談をお受けしています。



Meets 福島 futures　活動拠点：福島市

活動内容



○　子どもと保護者が安心して過ごせる居場所「ＭＡＹＵ」を拠点に、居場所づくりや学習支援、食支援、相談支援などを展開し、家庭教育支援および子どもの健全育成といった、「子どもが未来に羽ばたくための支援」を目的とした活動を行っています。

不登校親の会　つながる木かげ　活動拠点：二本松市

活動内容



○　不登校や行き渋りの子どもを持つ保護者や家族同士が安心してつながり、支え合うことを目的とした会です。対面・オンラインで行うお話会のほかに、お寺での座禅体験や講師を招いての漢育整体体験など、心身のセルフケアやリフレッシュできる活動も展開しています。

フリースクールブリリアント　活動拠点：福島市

活動内容



○　音楽・芸術・プログラミング・英会話・個別学習を軸に、子どもたちが「やりたい」を見つけ、安心して挑戦できる環境を整えた学び舎です。また、保護者向けや子ども向けのコーチングプログラムやワークショップ等も提供しています。

「子どもの安心につながるコミュニケーションとは？」



今回は、日本と北欧での実践に焦点を当てて幼児教育等の研究を続けられている仙台大学体育学部教授の柴田千賀子先生をお迎えして、「子どもの安心につながるコミュニケーションとは？」をテーマにご講演いただきました。お話の要旨をお伝えします。

大人のウェルビーイング

いつも幸福度ランキングの上位にあり、学力世界一にもなったフィンランドの教育実践について研究してきました。北極圏にあるフィンランドには極夜と白夜の時期があります。極夜のあいだは一日中陽が昇りませんが、そんな中でも日常生活が営まれ、子どもたちは暗い中を登園し、毎日元気に活動します。白夜のあいだは一日中太陽が沈まないので、明るい夜の中で眠ります。フィンランドは今、－１５℃くらいだと思いますが、そんな寒い毎日を快適に過ごすために、役所や空港、学校や幼稚園など至るところにサウナが備えられています。日本では考えられませんが、職員会議をサウナの中で行うことも普通です。また、１日２０分のコーヒータイムを約束する雇用契約があるなど、北欧には、職場でもニュートラルな時間を大切にしようとする意識があります。どんな大人も、子どもと毎日向き合い続ければ、必ず疲れを感じます。疲れたままで、子どもたちと心からの笑顔でかかわることができるでしょうか。日本でも「こどもまんなか」という言葉が聞かれますが、北欧には「『大人まんなか』の時間も大切」という認識があります。「子どもの安心につながるコミュニケーション」を考えるとき、「大人の安心」も忘れないようにしたいですね。

「自然のよさってなんですか？」

北欧の幼稚園では、気温が－３０℃でも、上下つなぎのスキーウエアを着せて、外遊びをさせます。外気の中で、意図的に自然に触れさせる時間を大切にしているからです。一方、日本の保護者のみなさんの中には「（東北は）自然に囲まれているので、園でわざわざ触れさせなくてもよいのではないですか？」とか、「自然のよさってなんですか？」と言われる方もいらっしゃいますよね。

自然の中で遊ぶ機会を設けた子どもたちは、そうでない子どもたちと比較して、介入試験後にお腹の症状（腹痛や便秘、下痢など）が有意に軽減したことが明らかになりました。また、腸内細菌叢の多様性が増加する傾向も認められました。さらに、唾液中の「コルチゾール」や「アミラーゼ」といったストレスに関連する生理学的指標も有意に減少しました。



もともと自然豊かな東北や北海道で育つ子どもたちから得られたこの結果は、“意図的に”自然に触れさせることの重要性を示してます。子どものウェルビーイング（安心と育ち）を考える上で、自然環境は大切な要素のひとつであると言えそうです。調査では、週に１回の散歩でも効果を得られることがわかっています。この恵まれた環境を生かして、ぜひ、親子で自然に触れる時間をつくってみてください。

牛乳パックが倒れたら

フィンランドでは、幼稚園でも家庭でも、子どもの意見を個人の意思として尊重します。その成果をはっきり感じたのは、幼稚園のおやつの時間に、牛乳パックを倒してしまった５歳児たちの姿を見たときでした。テーブルの上にこぼれた牛乳が広がり、床が濡れてしまっても、誰ひとりこちらを見なかったのです。その幼い子どもたちは、大人の方をまったく見ることなく、「ハンカチじゃたりない」「タオルをもってこよう」と、この事態をどう解決するか話し合い始めました。日本の子どもたちだったらどうでしょうか。こちらの顔色をうかがったり、すぐに大人に助けを求めたりする姿が思い浮かびます。大人のかかわりが、子どもの育ちに大きく影響していることをあらためて感じた出来事でした。

日本では、日常的なコミュニケーションのスタイルとして、大人が子ども「に」話している様子を多く目にします。知識を持っている大人が一方的に子ども「に」教えるという構図です。他方、フィンランドで見られるのは、大人が子ども「と」話す姿です。大人たちは、子ども「と」双方向で話し合い、思いを引き出し、一緒に考えようとします。そこで大切にされているのは、「目の前の子どもの姿をもとに」という姿勢です。「この子の考えはきっとこうだろう」という先入観や既存の理論に当てはめてかかわるのではなく、子どもの声を聴き、姿を見て、言葉やしぐさ、視線などから、その子の思いを受け止めながらかかわろうとします。また、より深い相手理解のためには、子どもの姿の背景にある「物語」を捉えておくことも大切なポイントになります。その子がどのような道を歩んできたのか、どんな「物語」を持っているのかにも目を向けることで、「はやく片付けなさい！」という発想が「熱中しているのね」という声かけに変わることもあるでしょう。どんな場面でも、「安心につながるコミュニケーション」は、子どもを理解しようとすることからはじまります。

人類は何千年もの間、子育てについての議論を続けてきましたが、決まった答えはまだ見つかっていません。だからこそ、「わからない」「むずかしい」と正解を急がず、子どもと一緒に過ごす時間を楽しみながら、時には立ち止まって、考え続けることが大切なのだと思います。

これからも、「ほっとするかかわり」を子どもの目線で探し続けて、いつかまた「子どもの安心につながるコミュニケーション」について、みなさんと一緒に考える日が訪れるのを楽しみにしています。



参加者の声

○　日々の忙しさで、子どもと関わることの楽しさやおもしろさを忘れかけていましたが、今回のお話を聞いて思い出すことができました。また明日から、新たな気持ちで子どもたちとかかわっていきたいです。

○　自然がこんなに近くにありながら・・・。もったいないことをしていました。意図的に自然と触れ合いながら、子ども「と」話そうと思うと、わくわくしてきました。

○　家庭教育支援チームについて知らないことが多かったので、実際に活動している方のお話を聞くことができてたいへん参考になった。

○　ご家庭をサポートしている団体さんが思ったよりもたくさんあってうれしかったです。

○　保育士になる前に柴田先生のお話を聞くことができてよかったです。この研修会で学んだことを大切にしていきたいと思います。

○　家庭教育支援チームがたくさんあることを知ったので、身近な方たちに具体的な支援の場所をお伝えしていきたい思います。

○　大人も子どもといっしょに楽しむことが大切だと感じました。ほっと一息つきながら、余裕を持った子育てができればと思います。

○　頭の中に新鮮な風が吹き込んだ感じです。子どもたち一人一人の物語を大切しながらかかわっていきたいと思います。

○　家庭教育支援チームの存在をはじめて知りました。まだ知らない人もいると思うので、次回も支援チームの紹介があるといいなと思いました。

○　日々保育をしている中で、どうしても子ども「に」話すことが多くなっている自分を反省しました。明日からは、子どもの「言葉」だけでなく、表情やしぐさにも目を向けて、ワクワクしながら子どもと向き合いたいと思います。

○　自然の中で学ぶことによって腸内環境が改善されることをはじめて知り、感動した。実際の保育現場でも、自然に触れ合う時間を多く持ちたい。

○　リラックスやリフレッシュから生まれる見取りやかかわりがあるので、日本にも広がっていくといいなと思いました。

○　これまでの研究から得られた知識や考え方を、柴田先生のあたたかい口調で教えていただきました。明日からの保育や家庭支援に生かせる具体的な内容でとても勉強になりました。理論にとらわれすぎず、でも自信を持って保育をしていきたいと思います。また、今日のお話を、保護者のみなさんにも伝えていきたいと思います。

○　今後も家庭や子供を支援していく仲間が増えていくといいなと思います。

